

総合周産期母子医療センター

1. スタッフ

センター長（兼）教授 大菌 恵一

その他、講師 2 名、助教 6 名、医員 16 名、臨床検査技師 1 名、医療ソーシャルワーカー 2 名、事務補佐員 1 名（兼任を含む。また、助教、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカーは特任を含む。）

2. 診療内容

当センターは、平成19年に総合周産期母子医療センターとしての認可を受けた。現在は、MFICU6床、NICU 9床、GCU 18床である。小児外科、脳神経外科、心臓血管外科、眼科、麻酔科をはじめ、小児内外科系の各専門分野にすぐに対応できる体制と、高度救命救急センター、成人ICUの協力体制が整っており、胎児期診断症例、母体合併症、母体救急などの症例が北摂地域のみならず、大阪府下、京阪神から多数紹介されている。母体・産科的合併症、胎児異常などのハイリスク妊娠を扱い、大阪府北部における第3次産科救急病院の使命も担っている。大阪府下に9施設ある最重症合併症妊産婦受入医療機関の一つである。また、近畿ブロック周産期医療広域連携では、産科救急患者受入コーディネーターが配置され大阪府ドクターヘリの運行が開始し、ドクターヘリ基地病院としての責務は重大である。平成27年10月には、胎児診断治療センターが開設され、より重篤な胎児診断症例に対して、チームで専門的治療を行うことが可能となった。また、平成29年度から、麻酔科医管理による無痛分娩も本格的に開始し、合併症を伴わない希望の無痛分娩の受け入れを積極的に取り組んでいる。

新生児医療については、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、麻酔科及び小児科各専門グループの協力体制のもと、出生前からの一貫したチーム医療を心がけている。大学病院の特性を生かし、高度な専門的治療が必要な症例、複数の診療科でチーム医療を施すべき症例、病態が複雑かつ重症で治療に難渋する症例などに対して積極的な治療を行っている。これら先進医療とともに Family-centered Care を理念の1つとして掲げ、NICU での 24 時間面会、兄弟面会などを積極的に進めている。また当センター専従の臨床心理士及びMSW とともに家族に対するきめ細やかなケアを実現している。

3. 外来診療体制

週 4 回の一般妊婦診では、内科・外科的合併症を有する妊娠管理も可能であり、他に胎児異常を専門とする胎児外来がある。また、午後には、超音波検査によ

る胎児の形態的スクリーニングを行っている。その他、遺伝子診療部と連携して、出生前の遺伝子診断、母体血胎児染色体検査（NIPT）、羊水による染色体検査も施行している。また助産師による母乳外来（週 3 回）では、出産後 2 週間での母と児の状態、哺乳状況の確認を行うことによって、きめ細かい母乳育児支援を行っている。小児科では、本院で出生したすべての児の一ヶ月健診を行うとともに、NICU を退院した患児の健やかな成長・発達を支えるため、新生児フォローアップ外来での診療を行っている。とくに近年出生件数が増えつつあるダウン症候群の児に対し、ダウン症外来での重点的なフォローを行っている。

【表 1. 外来診療体制】

	午前	午後
月	妊婦診	胎児超音波・母乳外来
火	妊婦診・胎児外来	胎児超音波、両親学級 新生児フォローアップ外来
水	合併症妊娠 ハイリスク妊娠	胎児超音波 母乳外来
木	合併症妊娠	胎児超音波 新生児一ヶ月健診
金	妊婦診・ 胎児外来	胎児超音波・母乳外来
		新生児フォローアップ外来

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

妊婦診は 1 日平均 40～50 人の来院があり、合併症妊婦や前置胎盤、多胎など妊娠合併症の紹介が増加するとともに、最近では無痛分娩を希望する妊婦の受診も増加している。胎児外来は 1 日平均 5 人の新患がある。いずれの外来も、大阪府下はもちろん広く京阪神からの紹介を受けている。超音波外来では、近隣からの胎児超音波スクリーニングのみならず、カラードプラによる血流診断、4D 超音波検査など、新しい胎児診断を試みている。また、妊娠中の domestic violence (DV) についてのスクリーニングを行い、その後のフォローを地域とともに進めている。新生児フォローアップ外来では育児支援にも重点を置き、母子と家族の best interest を目指す診療を行っている。

(2) 入院診療実績

当センターは、母体病床 14 床、MFICU 6 床、NICU 9 床、GCU18 床を整備している。分娩統計が示すように

母体合併症の率が高いのが特徴であるが、無痛分娩を希望する妊婦の割合が 25%を超え、合併症のない妊婦の割合も増加傾向である。新生児に関しては、早産児はもちろん、胎児診断治療センターの開設後、胎児治療や出生後に高度な治療を必要とする先天性疾患が多いのが特徴である。

【表 2. 令和元年度統計】

(1) 分娩数

母体数	599 例
児数	627 例

(2) 周産期統計

胎内死亡	7 例
新生児死亡	3 例

(3) 分娩統計

早産	22～27 週	2 例
	28～33 週	11 例
	34～36 週	73 例
母体紹介	626 例	緊急搬送 12 例
帝王切開	211 例	
	うち緊急	135 例

(4) 母体合併症

精神神経疾患	36 例
婦人科疾患	92 例
甲状腺疾患	39 例
血液疾患	20 例
糖尿病	10 例
腎疾患・高血圧	25 例
呼吸器疾患	31 例
自己免疫性疾患	18 例
循環器疾患	14 例

(5) 異常新生児（院外出生児を含む）

①低出生体重児	
～ 999g	2 例
1,000～1,499g	9 例
1,500～2,499g	113 例
②新生児疾患	
呼吸器疾患	170 例
循環器疾患	46 例
神経疾患	17 例
染色体疾患	13 例

腎疾患	21 例
感染症	11 例
内分泌	7 例
③小児外科的疾患	44 例
④脳神経外科疾患	13 例
⑤その他の外科疾患	34 例

(6) 最重症妊婦受け入れ実績

弛緩出血	10 例
癒着胎盤	11 例
常位胎盤早期剥離	1 例
敗血症性ショック	0 例
産道裂傷	5 例
重症妊娠高血圧症候群	15 例
その他	11 例

(7) 産科ハイリスク症例実績

前置胎盤	31 例
前置癒着胎盤	10 例
前置血管	0 例

(8) 無痛分娩症例実績

無痛分娩	190 件
------	-------

5. その他

(1) 先進医療

カラードプラ、4D 超音波あるいは MRI を用いた胎児診断、さらに羊水中の生化学的分析や胎児採血による直接的な胎児診断にも力を入れている。また、胎児胸水症や胎児尿路閉塞に対しては、胎内でのシャント術を積極的に行っている。

(2) 施設認定状況

日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度

母体・胎児専門医研修基幹施設

新生児専門医研修基幹施設

日本産科婦人科学会専門医施設認定

日本小児科学会専門医施設認定

(3) 新生児蘇生法講習会

NCPR（新生児蘇生講習会）の近畿地区トレーニングサイトとして、インストラクター養成コースを定期的で開催するとともに、医学部医学科・保健学科学生に対して 1 次コース（B コース）を開催し、学生全員が蘇生法講習会を受講できるようにしている。

(4) 最先端研究

ヒト iPS 細胞とゲノム編集技術をもちいた最先端の基礎研究を進め、ダウン症研究においては国内屈指の研究拠点となっている。